お鍬山　植物たより（Ｈ２７．８．１６）

ヤブラン

暑い毎日が続いています。早朝散歩にはお鍬山は最適です。ただ、南側の遊歩道は野草が生い茂っていて歩くには少々苦労します。嫌われものの、草丈が１メートル余のひっつき虫の一つ、イノコズチ（H26.9.17 掲載）に囲まれて 20 センチほどのヤブランが咲いています。葉の間から直立の茎をだし、多数の花をつけています。歩道上に咲いており、うっかりするとふみつけそうになりますが、淡紫色の花の色が目立ちます。イノコズチの実が衣服に引っ付かないように気をつけながらも、可憐な花のためについついかがんで見てしまいます。和名のヤブランはやぶに生え、葉が線形で葉質がやや厚く、深緑色で光沢があるランの葉に似ているからとのことです。種子は 11 月ごろ黒紫色に熟します。

ヤブマオ

南側上流部の堰堤周辺にヤブマオが多数自生しています。古代から衣服の材料として使われ、絹や木綿等が普及する迄は麻として日本各地で栽培されていた植物の一種です。その代表的なものがカラムシであったようですが、マオはカラムシの別名で、やぶに自生するのでこの名になったようです。カラムシはなぜか農道や篭川沿いを散歩しているとよく見かけます。カラムシは葉の裏が白く、花はヤブマオのように穂状にはなりません。

今年はヤマノイモ(H26.8.18 掲載)の繁茂が目立ちます。見間違うのがオニドコロです。ヤマノイモの多肉根は食用になりますが、オニドコロは食用には不適です。葉のつき方が前者は対生、後者は互生なので区別できます。

ヤマノイモ；対生

オニドコロ：互生